

講義名	異文化コミュニケーション		
科目区分	教養科目		
担当教員	中川 典子		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4時限		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		講義コード	24025

### 主題と概要

異文化間コミュニケーションは、1960年代初頭のアメリカ合衆国に始まった分野である。地球規模で文化の多様性が重要視され、異文化に接触する機会が益々増える現代において必須の学問的、かつ、実践的分野である。本コースの目的は、異文化間コミュニケーションの基本概念を学び、様々な演習活動を実践することで、多様な文化的背景と価値観をもつ人々との共存を可能とする持続的な異文化間コミュニケーション能力を養うことである。授業は異文化間コミュニケーションの理論に関する講義と演習の二つのアプローチから成る。

### 到達目標

- (1) 自己分析力を養い、自文化に対する客観的視野を養う。
- (2) 同一文化圏内に存在する多様性も含め、文化的多様性を尊重する態度を養う。
- (3) 様々な授業内活動を通じて、他者と協力することの重要性を理解し、協調性を養う。
- (4) 他者の意見を傾聴し、尊重することの重要性を学び、他者を理解するための態度を養う。
- (5) クラスメートたちを前に自分の意見を堂々と表現できるコミュニケーション力を養う。
- (6) グローバルな視点で物事を考える力を養う。
- (7) 上記を踏まえ、多文化社会で生き抜くための異文化コミュニケーション能力を養う。

### 提出課題

「予習・復習」の欄を参照のこと。

### 評価の基準

- (1) 課題（ジャーナル、その他）（60%）
- (2) 最終レポート試験（30%）
- (3) 授業参加と態度（10%）

### 履修にあたっての注意・助言他

- (1) コースの評価は、上記の成績評価基準の(1)(2)(3)すべての項目を総合して行うが、一つでも不参加の項目がある場合は不合格となる。
- (2) 講師が入室したときに教室にいない場合は遅刻者と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
- (3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となる。また、規定回数以上の欠席の場合、単位は認定されない。

\* 詳細は、第1回目の授業で知らせるので、必ず出席すること。

### 教科書

.使用しない。

### プリント資料及び参考文献

レジメとハンドアウト資料を適宜配布する。  
 (参考文献)  
 ・L.A.サモバー, R.E.ポーター, N.C. ジェイン (1993) 西田司ほか訳  
 ・異文化コミュニケーション入門 聖文社  
 ・八代京子ほか (1998) 「異文化トレーニング」 三修社  
 ・石井敏ほか (2001) 「異文化コミュニケーションの理論」 有斐閣ブックス  
 ・古田暁監修 (2001) 「異文化コミュニケーション・新・国際人への条件」 有斐閣選書

### 授業計画

- |    |                   |
|----|-------------------|
| 回  | 授業計画              |
| 1  | ガイダンス：コースの説明とミニ講義 |
| 2  | コミュニケーションとは(1)    |
| 3  | コミュニケーションとは(2)    |
| 4  | コミュニケーションとは(3)    |
| 5  | コミュニケーションとは(4)    |
| 6  | 文化とは(1)           |
| 7  | 文化とは(2)           |
| 8  | 文化とは(3)           |
| 9  | 知覚とカテゴリー化         |
| 10 | マスメディアとステレオタイプ(1) |
| 11 | マスメディアとステレオタイプ(2) |
| 12 | 偏見と文化摩擦(1)        |
| 13 | 偏見と文化摩擦(2)        |
| 14 | 文化的価値観(1)         |
| 15 | 文化的価値観(2)         |

\* 毎回の授業内容は進捗状況により、次回に持ち越すことがある。

### 予習・復習

復習として毎回、授業内容に関する考察をジャーナル形式で提出する。また、予習として、次週の演習準備のための課題を課すことがある。

### 備考

このコースは一方的な講義のクラスではないため、受講生の真摯、かつ、積極的な参加を期待する。第1回目の授業で履修に関する重要な説明をするので、必ず出席すること。